

氏名	森分 貴俊
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 7558 号
学位授与の日付	2026年3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Daytime Bladder Control Status in Toddlerhood Is Associated With Subsequent Bedwetting in Preschool Years: A Nationwide Cohort Study of Over 30 000 Japanese Children (幼児期の日中排尿制御と就学前期の夜尿症との関連: 日本全国30,000人以上の児童を対象とするコホート研究)
論文審査委員	教授 塚原宏一 教授 小川弘子 准教授 岡田あゆみ

学位論文内容の要旨

夜尿症は幼児期によくみられる疾患である。日中の膀胱制御は通常夜間排尿自立に先行するが、幼児期の日中排尿自立達成とその後の夜尿症との時間的関係は不明確である。本研究では日本の全国出生コホートで 2.5 歳時の日中おむつ使用と 4.5 歳時の夜尿症との関連を検討した。21 世紀出生児縦断調査を解析し、2.5 歳時の日中おむつ使用と 4.5 歳時の夜尿頻度を保護者質問票で評価した。修正ポアソン回帰でリスク比を推定した。対象児 32,168 名中、2.5 歳時おむつ不使用は 5,517 名 (17.2%) であった。4.5 歳時夜尿症有病率は全体 42.2%、おむつ不使用群 34.5%、使用群 43.9% であった。多変量調整後、日中おむつ使用継続は夜尿症リスク上昇と関連した (調整リスク比 1.25、95%信頼区間 1.20-1.31)。2.5 歳時の日中おむつ使用は発達・社会経済的要因調整後も 4.5 歳時夜尿症リスクを 25% 増加させた。幼児期の日中排尿自立は夜間排尿自立の重要な発達マイルストーンである可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

夜尿 (ベッドウェッティング) は就学前児童にしばしば認められる。日中の排尿コントロールは通常夜間の排尿コントロールに先行するが、幼児期の日中排尿コントロールとその後の夜尿との時間的関連性は不明確である。今回の研究では、わが国の 21 世紀出生児縦断調査 (2010 コホート) での保護者質問票を用いて 2.5 歳時の日中排尿コントロール (おむつ使用の有無) と 4.5 歳時の夜尿との関連性が検討された。修正ポアソン回帰を用いてリスク比が推定された。対象児 32,168 名中、2.5 歳時おむつ使用は 26,651 名 (82.8%) であった。4.5 歳時での夜尿の頻度は全体として 42.2% であった。2.5 歳時での日中おむつ不使用群では 34.5%、日中おむつ使用群では 43.9% であった。多変量調整後、2.5 歳時の日中排尿コントロール不良 (おむつ使用) は 4.5 歳時の夜尿リスクと有意に関連していた (調整リスク比 1.25; 95%信頼区間 1.20~1.31)。本研究によって、2.5 歳時の日中排尿コントロール不良が 4.5 歳時での夜尿リスクを 25% 増加させることが示された。幼児期における日中排尿コントロール状況が膀胱機能の成熟に関して発達指標のひとつになる可能性が示唆された。

本研究は、わが国の小児を対象にして幼児期の日中排尿コントロール状況と就学前における夜尿との関連性を検討したもので、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。